

第1日目 2022年9月3日(土)

午後の部 14:00~16:00

### テーマセッション(3)

## 量的データからみる性的マイノリティと家族の現在

### 一研究の困難・研究と困難

オーガナイザー：釜野さおり(国立社会保障・人口問題研究所)

司会：志田哲之(早稲田大学)

討論者：神谷悠介(中央大学)／松田和樹(早稲田大学)

#### 【企画趣旨】

いまや性的マイノリティは時代の寵児であり、寵児にまつわるストーリーにおいて「家族」は不可欠な構成要素となっている。そこで示される「家族」とは、そのあり方や制度を問うものから、当事者たちの家族関係・家族生活など、実に内容は豊富であり、「家族」にはこれでもかというほどの多種多様な 이슈が山積みであることを家族研究者は改めて認識するだろう。

そして誰しもが「家族」にかんする経験を有するために、家族の専門家・非専門家をとわず性的マイノリティと家族について述べることの敷居は低い。だが専門的にこうした研究を推し進めている者は限定的である。現に本学会においては、2000年代から性的マイノリティを扱う報告が断片的に行われてきたが、経年的にみて、学会での関心が高まっているとも、取り組む研究者が増えたとも、ましてや家族社会学の各領域に統合されているとも言いがたい。

その一方でこの敷居の低さは、研究の拡がりや豊かさの胚胎と地続きであるともいえる。日本家族社会学会に属しながら性的マイノリティにかんする研究に取り組んでいる研究者がいることは確かである。またこれまでの研究を家族に関連づけて進めるために本学会に入会する研究者もいる。そこで本セッションでは、このような研究者らが現在進めている量的研究を集めて報告する。具体的には量的調査における性的マイノリティの諸課題、このテーマでは数少ない二次利用が可能なデータを駆使した日米の比較分析、同性カップル・法律婚・事実婚の計量的比較分析を含む予定である。これらの研究は分析手法もテーマも多岐にわたるが、研究を進める上で遭遇する学術的、倫理的、個人的困難や研究しづらさを抱えている点において共通している。そこで本テーマセッションでは、性的マイノリティと家族に関する量的研究が、拡がりや豊かさの可能性にうちつつも、突き当たっている困難も報告に含める。その後、このテーマの質的研究者を加えた上で、フロアのみなさまからいただく質問やコメントを通じて、全体討論のようなスタイルで性的マイノリティと家族の研究の未来を拓きたい。